

第2回日中韓医史学会合同シンポジウム 各国報告者の原稿執筆および翻訳・印刷の要項

前略

第111回日本医史学会学術大会を、私が会長として2010年6月12日(土)・13日(日)に水戸の茨城大学で開催するにあたり、その前日の6月11日(金)に第2回日中韓医史学会合同シンポジウムも開催することにいたしました。詳細は別紙(案)をご覧ください。韓国医史学会からの報告者は韓国医史学会に選任いただきますが、日本・中国・ベトナムからの報告者は僭越ながら私が指名させていただきました。ついては以下の要領で原稿執筆および翻訳・印刷を実施しますので、各位に連絡申し上げます。

第111回日本医史学会学術大会会長 真柳 誠

2009年7月24日

1 執筆要項

報告者各位が自国語で執筆いただいた原稿は、他言語に翻訳して日中韓3カ国語の原稿とします。各国語の日本語翻訳は日本の会社、中国語翻訳は中国の会社、韓国語翻訳は韓国の会社に依頼します。しかし翻訳会社の担当者は医学史の専門家ではないため、誤解・誤読・誤認による誤訳が発生する可能性もあります。ついては誤訳を予防するため、以下の各点にご注意のうえ原稿執筆をお願いいたします。

〔文章表現〕

- ①文章は一般人にも理解が容易な表現を使用し、古語や婉曲な表現および一般辞書にない専門用語(固有名詞を除く)の使用を避ける。
- ②一文は短く書き、80文字以上を避ける。
- ③一文は基本的に主語+述語の構成で書き、複数の主語を避ける。
- ④主語の省略を避ける。
- ⑤指示する対象が不明瞭な指示代名詞の使用を避ける。
- ⑥韓国語原稿では人名・書名・地名等の固有名詞に漢字を使用し、漢語に基づく語彙も可能な限り漢字を使用する。

〔書式など〕

- ①Microsoft Word を使用して執筆する。
- ②ページの余白を上下左右ともに20mmに設定し、文字サイズは12pを使用、文字数を40、行数を30に指定する。

- ③論文タイトル・執筆者名・所属・見出・引用文献・注釈は、各自の慣れ親しんだ書式で統一してあればよい。
- ④論文の字数は自由だが、各自の実質報告時間(35分ないし15分)を考慮して執筆する。
②の書式で35分報告する論文は10枚程度、15分報告する論文は5枚程度。
- ⑤原稿ファイルをメール添付で送付するため、カラーや解像度の高い図版の使用は不可で、精選した少数の図版を使用する。また図版の所蔵権に考慮する。
- ⑥論文以外に、各自の経歴・現職・業績等を簡略に記して添付する。これも各国語に翻訳するため、各言語とも200文字以内が望ましい。
- ⑦論文は無償で執筆いただくが、著作権は各自が所有する。
- ⑧論文の各国語翻訳はWordファイルで執筆者に無償で提供する。これに基づきPowerPointファイルを3言語で各自が制作し、2010年6月10日(木)までに持参してシンポジウム実行委員に手渡す。

2 原稿の締め切りと翻訳の発注

[2009年12月11日(金)締め切り原稿]

- ①韓国演者「(仮)韓国医学形成の軌跡」
②韓国演者「(仮)『東医宝鑑』と韓国医学の自立」
③小曾戸洋「(仮)日本医学形成の軌跡」
④遠藤次郎「(仮)『啓迪集』と日本医学の自立」
⑤ベトナム演者「(仮)『医宗心領』とベトナム医学の自立」。

以上①～⑤の各国語翻訳を即座に発注し、2010年1月15日(金)までに受け取る。

[2010年3月19日(金)締め切り原稿]

- ⑥梁永宣「追加討論」(①②の中国語訳に基づき執筆)
⑦廖育群「追加討論」(③④の中国語訳に基づき執筆)
⑧韓国演者「追加討論」(⑤の韓国語訳に基づき執筆)
⑨鄭金生「(仮)日韓越の自立を促した中国医学」(①～⑤の中国語訳に基づき執筆)

以上⑥～⑨の各国語翻訳を即座に発注し、2010年4月16日(金)までに受け取る。

3 印刷と配布

以上の計9論文を3言語で掲載した論文集1冊(A4判、約250頁を予想)を、2010年5月末までに印刷製本(約300冊)し、会場で3学会会員に無償配布する予定です。ただし翻訳と印刷製本の費用が不十分な場合は、商業出版社に委託する可能性も考えています。